

石田 真弓 審査結果の要旨

論文審査の結果の要旨

申請者：石田真弓先生（埼玉医科大学国際医療センター 精神医学）

学位申請論文タイトルおよび掲載誌

Communication Disparity between Bereaved and Others: What hurts them and What is unhelpful?-A Nationwide study of the Cancer Bereaved

学位審査日時：平成30年3月31日（土曜日）

午前11時から12時まで

場 所：日高キャンパス 教育研究棟2階会議室

出席者：佐伯俊昭、吉益晴夫、柴崎智美、儀賀理暁

石田真弓（申請者）、大西秀樹（指導教員：オブザーバー）

審査委員会全員出席にて、申請書類の確認を行い、問題なきことを確認した。その後、石田真弓先生から研究内容の要旨を説明していただいた。非常にわかりやすく、ポイントを得た発表であった。審査委員から以下の質問とコメントがあった。

1. アンケートの回収率が67%であったが、回答のなかったご遺族は何故回答しなかったのか。
回答：今回の研究では、回答されなかった理由を聞いておらず、不明である。
2. この結果を今後どの用に役立てるのか。
回答：患者遺族のための心理的支援用のツールの開発に役立てたい。
3. Table3の一部に明らかにおかしい記述がある。統計的に、レンジの中に入らない Odds ratio が記載されている。
回答：単純なミスであり、この場で修正する。
4. 抑うつのある遺族に対してこのような調査を行う場合の注意は何か。
回答：対象として抑うつのある遺族は除外しており、どのような結果になるかは不明である。
5. 質問は実際日本語で行われたはずだが、英文誌であるので英語とのニュアンスが微妙に異なると思われる。日本語の質問票があるとよい。
回答：調査の結果には大きな影響はないが、日本語の質問票も用意可能である。
6. 患者の死亡までの期間の中央値は平均 17.2 か月、中央値 16 か月とあるが、結果と調査時期との関係はないのか。
回答：それはあるかもしれない。しかし、現時点ではこのような方法でも貴重なデータと考える。
7. 対象が緩和施設に入院した患者の遺族であるが、そうでない患者の遺族と調査結果が異なると思われるか。
回答：その可能性はあるが、データがないので不明である。

以上の質問に対して、申請者は的確に回答し、かつ態度も真摯であり、回答に対して委員全員が理解し、納得した。Table3 のミスプリも結論に影響を及ぼさないし、単純なものであるため正式な修正は不要であると判断した。

最後に、委員全員が学位申請者は、学位を授与するに十分な知識と研究の実務を担当していたことを確認して、学位を授与するにふさわしいと判断した。